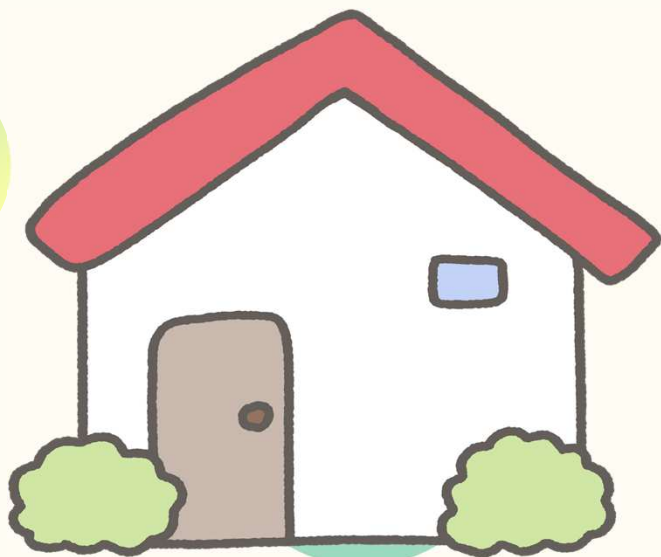


適材適所の住み替え

～ケアハウス大地の退居支援～



ケアハウス大地

生活相談員 出口美由紀

○ケアハウス大地は・・・

特定施設入居者生活介護

自立から要介護5の方まで受け入れ可能



軽介助者

認知症
介護が必要な方

どちらに合わせるか悩む…



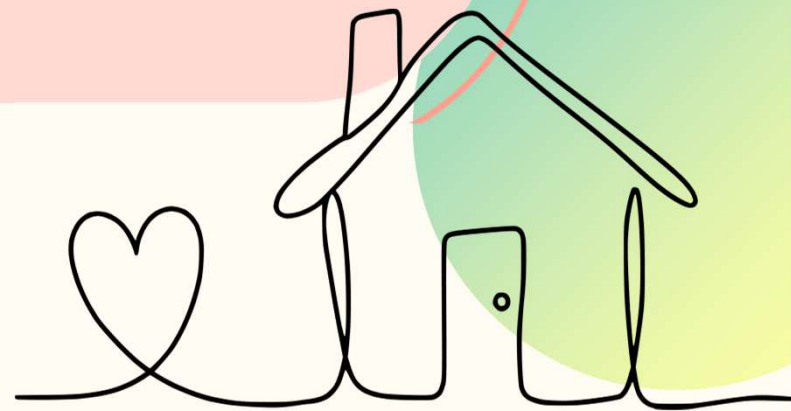
○有料老人ホームだんらんも近々閉所…

○大地入居者の状態に応じた適切な施設入所

○だんらん入居者を受け入れる



積極的な住み替え支援



住み替えは…

- 本人・家族の心理的・身体的負担が大きい
- 住み替え先施設との情報連携の不足
- 住み替えを希望しても空室がない

生活相談員の支援が重要



しかし

私自身 経験が少なく 苦手意識が強い





住み替え支援時に 気を付ける事

①入居者・家族への面談



- 〇 住み替えを提案するに至った現在の身体面・精神面状況を伝える
- 〇 住み替えをすることで生活環境や身体状態がどうよくなる可能性があるかを伝える
- 〇 住み替えをするべきと決めつけず生活の安心をどう守るか一緒に考える
- 〇 1度だけで決めようとせず提案や案内を段階的に行い入居者・家族それぞれと行う
- 〇 希望されれば候補施設の見学ができるよう調整

② 住み替え先施設への情報提供

● 基本情報、アセスメント情報の提供

● 普段の生活の様子や人となりを伝える

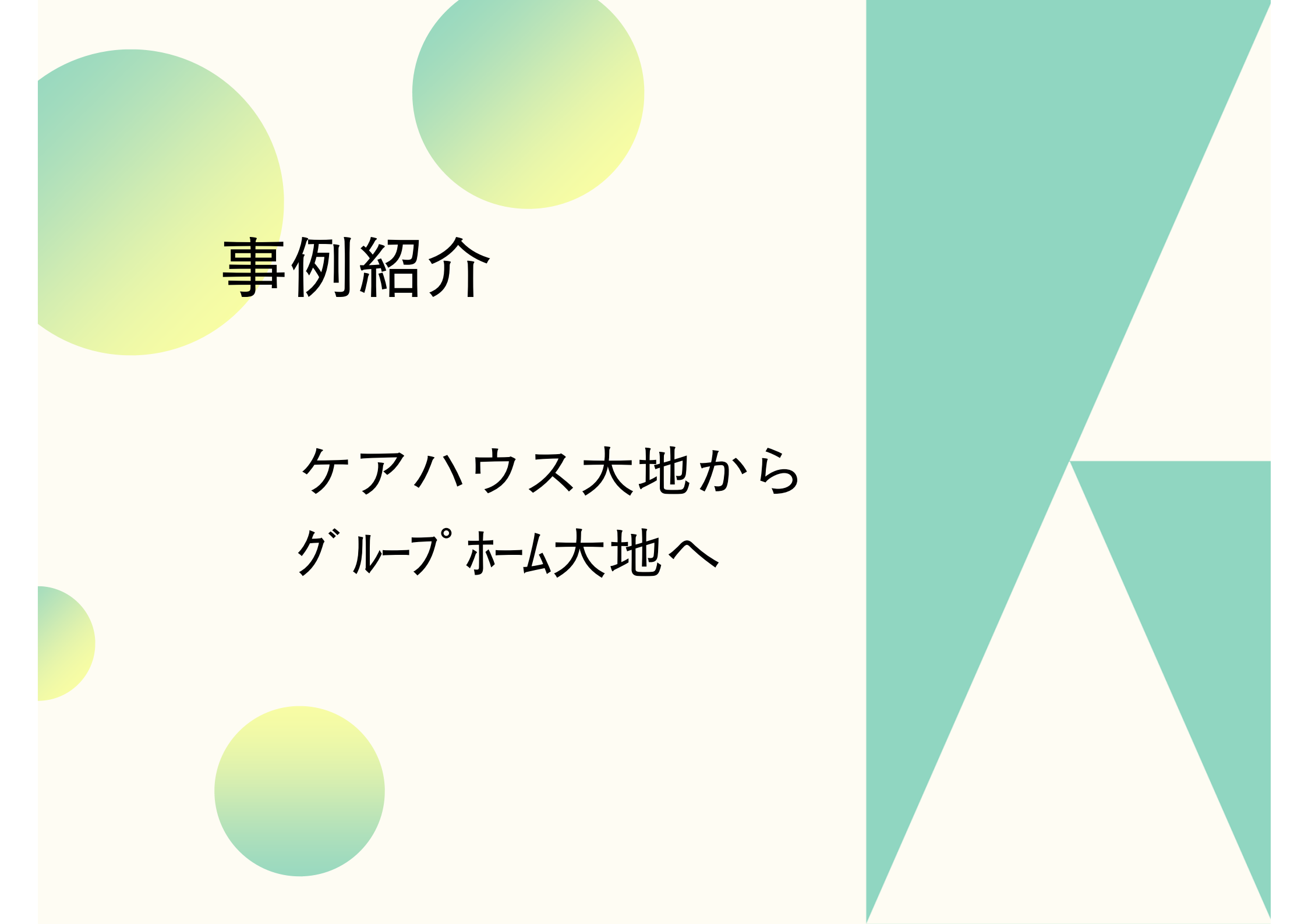
● 家族の情報（意向、関わる頻度、関係性）



③移動当日の立ち合い、その後のフォロー

- 安心できるような態度、声掛け
- 住み替え後の様子確認 アドバイスがあれば伝える
- 家族への報告 家族からの意見の共有





事例紹介

ケアハウス大地から
グループホーム大地へ

● A様 93歳 女性 要支援2 認知症 ADL自立 R5.8月大地入居

● 他県で看護師として勤務後、独居生活。

● 主介護者…多久在住の妹

自分の近くで生活してほしい
少しでも長く大地で過ごしてほしい
まだ、大地に居れるのか…不安

安心していただける声掛け
をしつつ、少しずつ、住み
替えの話を伝えた



徐々に、大地での生活が難しくなってきた

面談

- ・面会の度に色々な施設の話や住み替え後の可能性を伝えていた
- ・「そろそろかなと思っていた」と受け入れが早かった

施設への情報提供

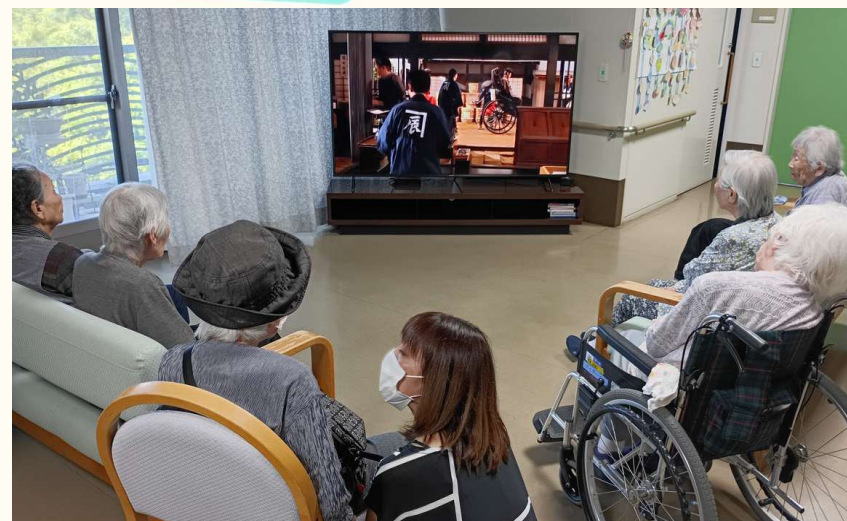
- ・見学・申し込みの際、相談員も同席 基本情報の提供
- ・本人にグループホームでの生活に興味がわくような声掛けを行った
- ・かかりつけ病院にグループホームに転居される旨伝えた

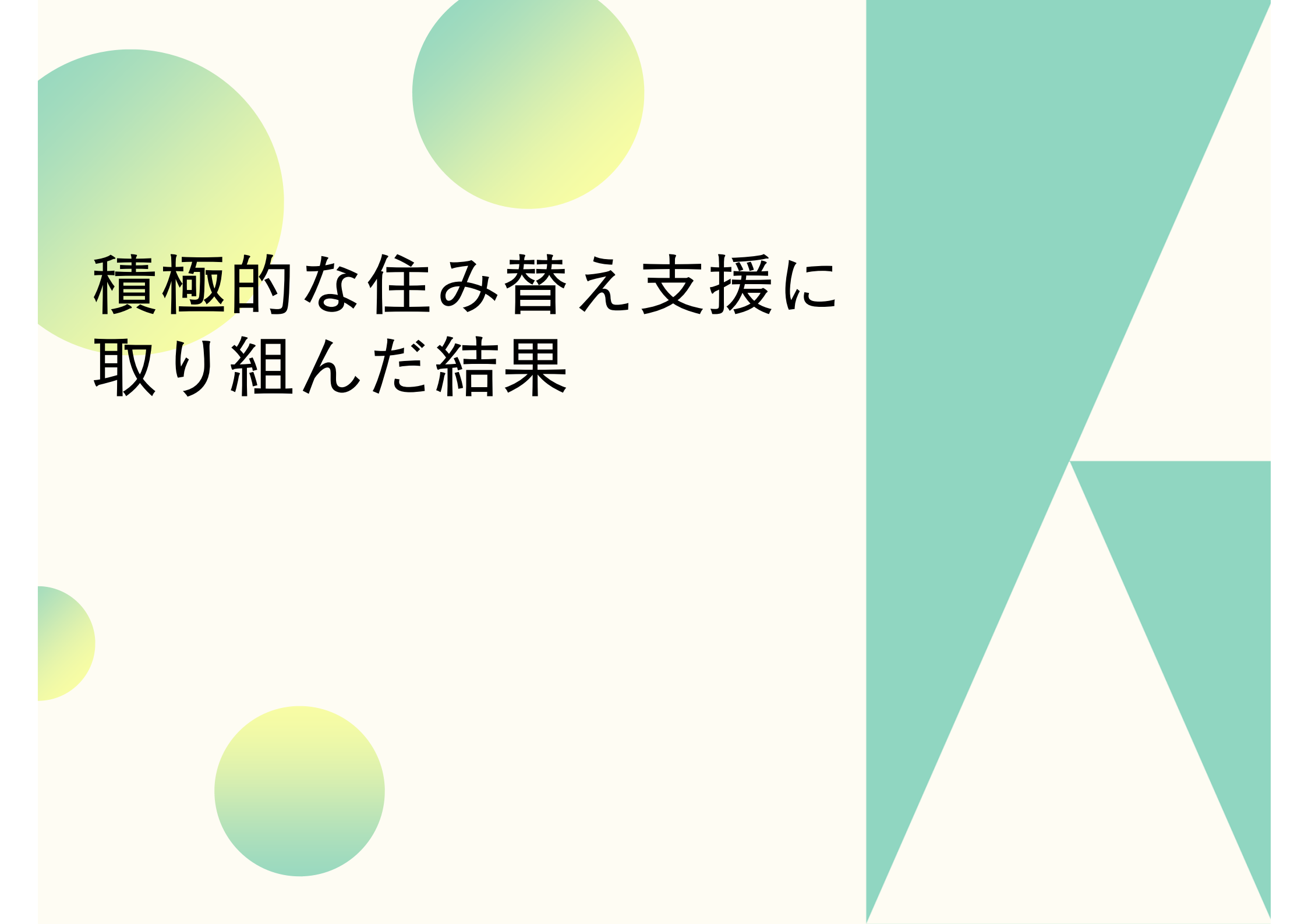
移動日の立ち合い・フォロー

- ・引っ越しを手伝い、本人と一緒に環境整備をした
- ・1週間程度、生活の様子を確認し、できるアドバイスを行った



QOL向上につながった





積極的な住み替え支援に 取り組んだ結果

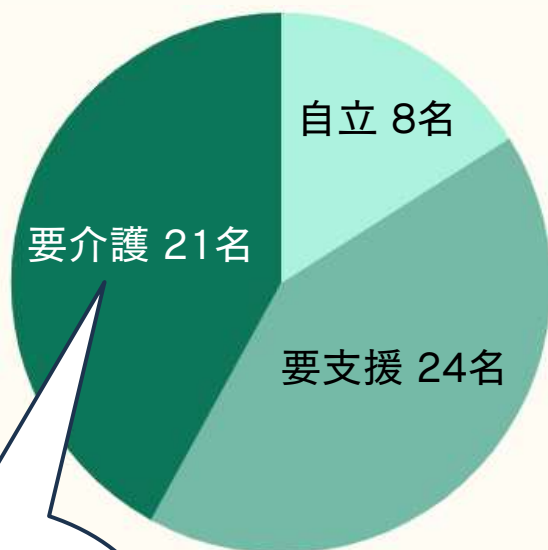
R6.10月～R7.6月の9か月間

○19名退居（内、施設から住み替えを促した方13名）

○だんらん入居者を8名受け入れた

○軽介助者が増え、平均要介護度が軽くなった

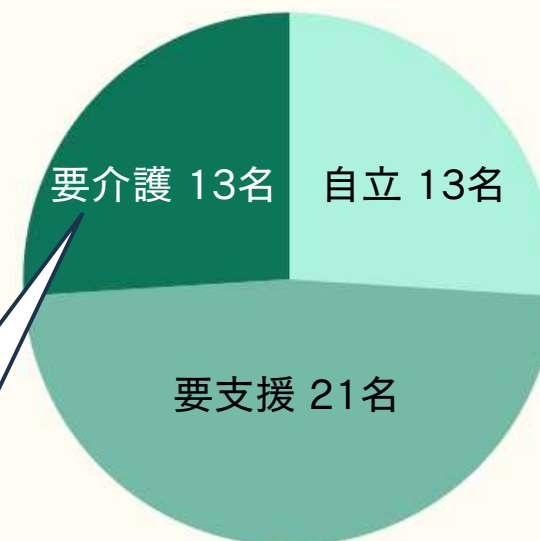
R6.10月（平均要介護度…1.04）



要介護2以上が

9名

R7.6月（平均要介護度…0.65）



要介護2以上が

1名



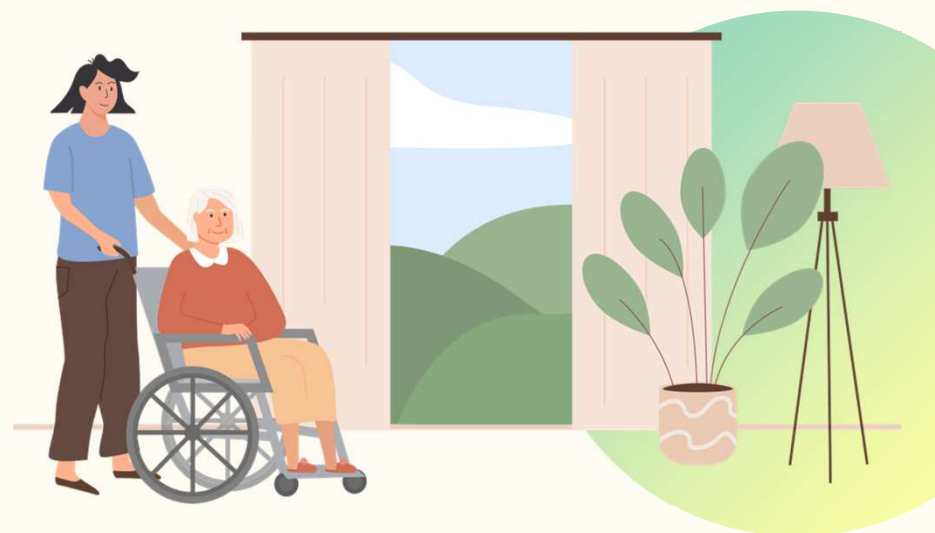
介護度や状態に見合った施設に転居することができた



行事や外出の内容設定がやりやすくなった

予定より早くだんらんを閉所できた

Q O L 向上につながった



考察



住み替えはネガティブなもの
ではなく

適材適所な場所での 再スタート

ととらえる

相談員は

橋渡し役

として

本人主体の支援を行うべき

入居契約時からの段階的な
住み替え支援

施設間ネットワークの強化

住み替え支援の仕組み作り

品質目標

やすらぎ・天寿荘見学ツアー

家族への施設紹介

今後の課題



ケアハウス大地の退居支援が
より良いものになるように繋げていく

ご清聴
ありがとう
ございました

